

Global Letter

Vol.
18



1 タイ特集

仙台国際空港株式会社

取締役航空営業部長 岡崎 克彦氏

2 海外事業展開企業インタビュー

株式会社ヤマト 代表取締役 緑川 智恵子氏

Yamato (Thailand) Co., Ltd. Managing Director 久保 直人氏

Global Letter

Contents



特集 1 タイ特集

01 |インタビュー| **仙台国際空港株式会社**
取締役航空営業部長 **岡崎 克彦氏**

04 **タイを知ろう!! タイ基礎情報**

特集 2 海外事業展開企業インタビュー

06 |インタビュー| **株式会社ヤマト 代表取締役 緑川 智恵子氏**
Yamato (Thailand) Co., Ltd. Managing Director 久保 直人氏

10 **グローバルトピックス 現地スイーツ事情**

12 **NEWS タイ日系企業交流会**

13 **ご案内 ASIAビジネス交流会2020**

Photograph of the cover



- 1 タイ (バンコク ワットライミット)
- 2 タイ (バンコク カオサン の街並み)
- 3 タイ (バンコク ハイウェイブリッジ)

■ 掲載内容について

本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢および当行が合理的と判断した一定の前提に基づき作成されておりますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。

本資料のご利用並びに取り組みの最終決定につきましては、貴社ご自身のご判断でなされますよう、また必要な場合には顧問弁護士、顧問会計士などにご相談の上でお取り扱い下さいますようお願い致します。

「仙台－バンコク便」復活!!

仙台国際空港インタビュー

2019年10月30日から、国際定期路線「仙台－バンコク便」が、約5年半ぶりに運航再開となりました。アジアを代表する人気観光地であるタイには、東北地方からも多くの方々が旅行に訪れるほか、東北企業の生産拠点や販売拠点が数多く存在

することから、本便の再開を歓迎する声が多方面からあがっています。また、タイから東北を訪れる旅行者も年々増えていますが、本便を活用して、更に多くのタイの方々が東北に来ることが見込まれます。

そこで今回は、2016年7月の仙台空港

民営化に伴って運営主体となられた仙台国際空港株式会社様に、「仙台－バンコク便」再開によるビジネスへの活用可能性や、インバウンド・アウトバウンドへの効果等について伺います。



仙台国際空港株式会社

取締役航空営業部長

岡崎 克彦氏

KATSUHIKO OKAZAKI

Q1

「仙台－バンコク便」再開までの
取り組みについて教えてください



A

ご存知のとおり、本便は2013年～2014年に約4ヶ月程度運航した後、運休状態となっていました。タイの政治情勢が不安定化し、日本からのアウトバウンドが減ったことが原因とされていましたが、実は同時期にも、日本の他の地方都市路線は継続されていました。これは、当時はタイからのインバウンドを取り込むという活動に力を入れておらず、アウトバウンド頼みだったことが主な原因と思われる。そこで、本便の再開を目指して、アウトバウンドはもちろんのこと、インバウンドの需要喚起に力を入れる方針を決め、タイ国際航空に対して、様々な数的データをもとに本便再開のメリット等について説明を実施するとともに、行政とタッグを組んで東北地方のプロモーション活動を行ってきました。

Q2

ビジネス上のメリットについて教えてください

A

本便のビジネス上のメリットは数多くあると思いますが、例として挙げるとすれば、①タイへの出張等のアクセス向上、②貨物輸送に関するリードタイム・コストの削減、③タイを経由した他国へのアクセス向上、等だと思います。

Merit

1

出張等のアクセス向上

従来、仙台空港を利用してタイへ渡航する場合、国内乗継(成田空港等)もしくは海外乗継(ソウル、台北等)が主流となっていました。旅行で海外に行かれる際には、乗継も旅の楽しみの一つと考えていただくことも可能でしょうが、ビジネスの場合には極力直行便で時間のロスを減らしたいと考える方が多いです。実際に、タイに拠点を持っている東北企業に本便の再開決定を報告したところ、本当に喜んでいただきました。

東北地方でタイとのビジネスを展開されている企業は数多く存在し、同じように本便の再開をご期待いただいていたと思います。これからは是非本便を有効活用していただきたいと考えています。



タイ国際航空旅客機



Merit

3

タイを経由した他国へのアクセス向上

タイは地理的に他のASEAN諸国へのアクセスをしやすいため、タイに到着してから、周辺の第三国へ比較的容易に移動することが可能です。今までは当日の朝早く、もしくは前日の夜に東京まで移動し、そこから目的地までの飛行機に乗らなければいけなかった国や地域でも、本便を活用することで、よりスムーズにアクセスできるようになります。

これは、貨物でも同様で、本便でタイへの貨物輸送のリードタイムが削減されると、タイ周

Merit

2

タイへの貨物輸送に関する リードタイム・コスト削減の可能性

東北地方からタイへ貨物を空輸する際、今までは貨物を陸路で成田空港へ、あるいは空路で大阪空港経由で羽田空港へ運んでからタイ行きの飛行機へ積み直し、タイへ輸送するという流れが一般的でした。しかし、本便を活用することにより、国内では仙台空港までの輸送で済むようになるため、リードタイムが削減できます。また、他の空港と比べて通関があまり混

雑しておらず、そこでも時間を短縮できます。

コスト面でも、国内では仙台空港までの輸送コストしか発生しなくなります。実際には、成田空港等で多くの荷物をまとめた方が、トータルコストは低くなる可能性もありますが、今後仙台空港をご利用いただく方が増えていくと、仙台発の航空便でもコストが低減でき、メリットが拡大することが見込まれます。

運行スケジュール

●仙台ーバンコク便 時刻表

行先	出発	到着	運航日
仙台→バンコク	11:15	16:05	水・金・日
バンコク→仙台	23:59	7:40	火・木・土

●バンコクから他国への乗継便(例)

バンコクからの行先	出発	到着
★ ホーチミン(ベトナム)	17:35	19:05
★ ハノイ(ベトナム)	17:30	19:20
★ ヤンゴン(ミャンマー)	18:05	18:50
● ビエンチャン(ラオス)	17:35	18:50
▲ プノンペン(カンボジア)	18:20	19:35

※全て現地時間



辺国への貨物輸送の利便性も向上することが考えられます。成長著しいASEAN諸国への貨物輸送ニーズは相応に高いと考えています。また、バンコクのスワンナプーム国際空港は世界的に見ても大きなハブ空港であるため、ASEAN諸国のみならず、欧州等への空輸についても活用を検討することができます。ただし、タイから第三国への輸送については規制されている部分もあるため、事前に調査が必要です。



Q3

インバウンドへの効果について教えてください



A

インバウンドについては、近年、タイから東北地方へ訪れる人々が増えています。本便の就航により、更に増加するのではないかと考えています。東北地方は紅葉→雪→桜といったように、3シーズンにわたり自然の観光資源が豊富であり、かつ寺院等の仏教関係の建造物も豊富にあります。タイは仏教国であり、タイ人は仏教関係スポットを大変好む傾向があると聞きますので、今後、仙台-バンコク便を利用して東北を訪れる方々に、東北の仏教関連文化をより強くアピールすることができれば、更にインバウンド需要が旺盛になるかと思われます。

また、タイから本便を利用して東北に来る方々は、台湾や韓国の方々よりも移動時間が多くかかる分、東北での滞在期間も長くなることが予想されます。そうすると、東北全体で周遊するため、多くの観光スポットが求められます。多くのタイ人が東北に定期的に来てくれるような状況にするためには、東北全体で一丸となって魅力的な観光情報の発信をしていくことが今まで以上に重要になってくると思われます。

Q4

今後の展望について教えてください



A

当社が仙台空港を運営するようになってから、東北の空の玄関口となるため、多くの新規便を就航しました。現在、国内では11空港と、海外ではソウル・上海・大連・北京(大連経由)・台北・バンコクの6都市と空の道を繋いでいます。当初5年以内の実現を目指していた目標は概ね達成できましたが、現状に満足しているわけではありません。今後も、仙台空港をご利用いただく皆様の利便性が向上するよう、新たな路線誘致や就航頻度の増加について検討を進めていくつもりです。



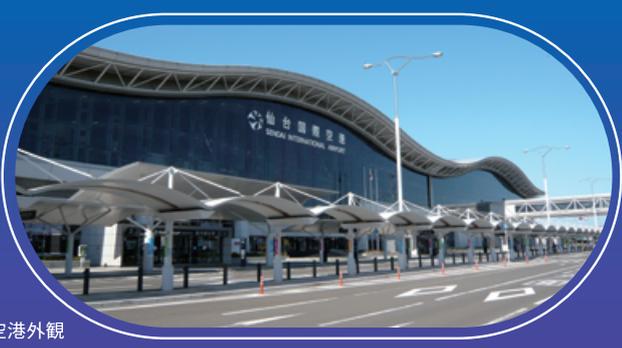
仙台空港での就航記念セレモニーの様子



企業概要

仙台国際空港株式会社

代表取締役 岩井 卓也
 本社 / 宮城県名取市下増田字南原無番地
 設立 / 2015年11月
 事業内容 / 仙台空港の運営等
 資本金 / 4,249百万円



仙台空港外観

タイ基礎情報 タイ王国 *Kingdom of Thailand*



◆人口	6,779万人
◆面積	51.4万km ²
◆首都	バンコク
◆言語	タイ語
◆名目GDP	4,872億米ドル
◆一人当たりGDP	7,187米ドル
◆実質GDP成長率	4.1%



出典：外務省、日本貿易振興機構、世界保健機関(WHO)等の各ホームページ
※2018年現在



2014年5月、インラック首相が失職した後、プラユット陸軍司令官が全国に厳戒令を発令、国家平和秩序維持評議会(NCPO)が全統治権掌握を宣言した、いわゆるクーデターが発生しました。その後、プラユット暫定政権により民政復帰に向けた新憲法策定や選挙法の整備が進めら

れ、2019年3月に、8年ぶりとなる下院選挙が実施されました。6月には上下両院合同議会議が開催され、プラユット首相が正式に新政権首相に選出され、NCPOは解散となり、タイは5年ぶりの民政復帰を果たしました。



近年のタイ経済は、クーデターや大洪水などの要因で、安定した経済成長を続けているとは言いがたい状況でしたが、直近では個人消費が持ち直してきたため、緩やかな経済成長局面を迎えています。2011年～2012年に実施された自動車購入者への減税措置の反動により、近年は自動

車販売台数が低迷していましたが、2018年には5年ぶりに販売台数が200万台を突破し、個人消費が回復傾向であることが分かります。

今後は、更なる経済発展のため、政府主導で次世代自動車技術やロボット工学等の分野で外資企業を誘致すると発表しています。



日本とタイの人的交流については、日ASEAN友好協力40周年を契機として、2013年にタイ人短期滞在者に対するビザ免除措置を開始した影響もあり、訪日タイ人の数は増加傾向にあります。2018年には約114万人と過去最高の訪日者数を記録しました。一方、日本からタイへの渡航者数は、2014年にタイの政治情勢の混乱から減少しましたが、その後は増加傾向にあり、2018年には165万人に達し、こちらも過去最高となりました。

また、タイでは日本語を学ぶ人が多く、日本語学習者は2018年で約17万人であり、2012年と比べると約25%増加しています。日本語教育機関も600機関以上あり、こちらも2012年より30%増加していることから、タイにおける日本語学習の人気度がうかがえます。背景としては、タイにおいて日本のアニメブームが続いており、アニメをきっかけとした日本語学習ニーズが高まっているようです。

!!



最

近

注

目

の

3

ワ

1

ド

1 中所得国の罣

中所得国の罣とは、国の経済が中所得国のレベルで停滞し、それ以上の所得水準になかなか移行できない状況を指します。新興国が低賃金と豊富な労働力を背景に経済成長し、中所得国としての地位を確立した後、人件費の上昇による他国への生産拠点移管や技術力不足により、経済成長が停滞してしまうという状況です。

近年、タイも中所得国の罣に陥っているのではないかという見方が出てきており、タイ政府はこの状況を打破するため、「タイランド4.0」という国家戦略のもと、産業の高付加価値化や技術革新を目指しています。

2 タイランド4.0

タイランド4.0とは、タイ政府が策定した国家戦略で、産業の高度化、高付加価値化を図り、持続可能な経済成長の実現を目指すというものです。この戦略を実行し、2036年までに高所得国となることを目標としています。

また、タイ政府はタイランド4.0を担う重点産業として、右図表の10産業を挙げていて、これらの産業を短期・中期・長期に分けて育成する計画です。

1	次世代自動車
2	スマート・エレクトロニクス
3	メディカル・ウェルネスツーリズム
4	農業・バイオテクノロジー
5	先進的な食品
6	ロボット工学
7	航空・ロジスティクス
8	バイオ燃料・バイオ化学
9	デジタル産業
10	医療ハブ

3 東部経済回廊（EEC）

東部経済回廊(EEC)とは、上述の「タイランド4.0」を加速させるため、タイ東部3県(ラヨン・チョンブリ・チャチュンサオ)をEECエリアとして指定し、5年間で1.7兆バツの投資を官民で実施する予定です。タイランド4.0の重点産業への

投資誘致のほか、鉄道、港湾、道路、空港等のインフラ開発も合わせて実施するものです。EECエリアで対象となる事業で投資した場合、法人所得税の免除等の恩恵を受けることが可能です。

◆タイ東部3県 ラヨン県・チョンブリ県・チャチュンサオ県



株式会社 ヤマト



代表取締役

緑川 智恵子氏

Yamato (Thailand) Co., Ltd.
Managing Director

久保 直人氏

株式会社ヤマトは、岩手県北上市に本社を構え、焼肉・冷麺を中心とした飲食店を岩手県、宮城県で13店舗経営しています。

2015年には、タイ（バンコク）にて「Yakiniku Reimen Yamato Bangkok」をオープンし、タイでの飲食事業を開始しました。タイにおいても、当社の特徴的なイベントである「冷麺祭り」を実施したり、タイのアイドルを活用したイベントを実施するなど、様々な方法で当社をPRし、着実に知名度を伸ばしています。

また、最近ではタイにおいて他の飲食店から食肉加工の受託も開始するなど、タイでの事業展開に積極的に取り組んでいます。

左から

久保 直人氏 NAOTO KUBO

緑川 智恵子氏 CHIEKO MIDORIKAWA

株式会社ヤマト
専務取締役

緑川 健太氏 KENTA MIDORIKAWA



Q1

海外事業に取り組まれた
きっかけを教えてください

A

当社がはじめてタイと関わりを持ったのは、今からおおよそ15年前です。当時、当社は自然の酵素を使って肉をやわらかくする取り組みをはじめため、タイからパイナップルを輸入しました。しかし、いざパイナップルが届いてみると、実が小さく、非常に質の悪いものでした。そこで、先代の社長が直接生産現場を確認するためにタイに行ったところ、タイの景気の良さや発展スピードに感銘を受け、タイでのビジネスをスタートすることになりました。

しかし、当初は「焼肉・冷麺ヤマト」としての事業ではなく、社長個人が様々な事業を手掛けていました。社長がタイで酸いも甘いも経験した後、2014年にいよいよ「焼肉・冷麺ヤマト」として出店することを決め、現在に至ります。

焼肉・冷麺



Q2

タイで事業を行うにあたり、 苦勞した点について 教えてください



A

タイでビジネスをはじめると、様々なところから情報収集をしたのですが、実際にビジネスをはじめると、予想外なことが数多く起こり、それに都度対処していくこと大変苦勞しました。中でも特に苦勞したことは、「人材確保」です。タイでは、現地法人が雇用する日本人従業員の数や資本金の額によって、タイ人を何名以上雇用しなければいけないという規定があります。当初はその人数のタイ人を雇用すればいいと軽く考えていたのですが、実際に求人をかけても思うように人材が集まらないことに非常に戸惑いました。タイでは、日本と同じように飲食業界で働く人が減ってきており、周辺国のミャンマー等の人材を活用しているという状況を知らなかったのです。そこで、今度はミャンマー人を採用しようと考えたのですが、そうするとタイ人の雇用人数が足りず、ミャンマー人のワークパーミット※を取るができないという別の問題が浮上りました。このように、次々と困難にはぶつかりましたが、一つ一つ着実にクリアしていき、今では信頼のおけるタイ人、ミャンマー人スタッフと楽しく仕事できています。

※ワークパーミット/タイで外国人が働く際に必要な許可証



「Yakiniku Reimen Yamato Bangkok」
店内の様子



Q3

タイでのビジネスにおける 注意点を教えてください

A

タイは一般的に外国為替規制等が他国に比べて厳しくなく、比較的ビジネスをしやすい国と言われています。実際に、法人の設立や資金調達のハードルは低いのですが、意外な落とし穴として「労務問題」があります。タイの法律や政策は、「タイ人を守る」ために制定されているため、日本人や日系企業より、タイ人・タイ企業が優遇されます。日系企業がタイに進出する際、ビジネスを軌道に乗せるため、販路開拓や調達先確保に奔走し、社内の人事規定や労務規定をおろそかにするケースがあると聞きますが、そうしてしまうとタイ人スタッフと給与や福利厚生面で意見が衝突してしまう可能性があります。仮に裁判等になってしまった場合、日系企業が不利になることが予想されますので、タイへの進出を決められた段階から、そういった問題が発生しないよう、各種規定をしっかりと作りこむことが大切だと思います。



タイ店舗外観



店舗隣の食肉加工場



現地提供メニュー

Q4

タイに進出して良かったことを教えてください



実際に提供しているお肉

A

タイで新たに売上げを立てられるようになったのはもちろんですが、それ以外に、日本での事業に好影響を与えるという意外な効果がありました。

タイという新天地で飲食事業をはじめるとあって、どのように宣伝をすればタイの方々に来店してもらえるか、試行錯誤を繰り返しました。現地ではSNSが情報発信ツールとなっているため、イベント情報を積極的にSNSで発信したり、店舗の前に桜を設置し、「インスタ映えスポット」としても活用できるようにしたり、タイで人気のアイドルグループを店舗に招いて、ファンとの交流会を企画したりしました。タイにおけるこれらの取り組みをしたおかげで、日本でも「新たな販促方法を考える」という土壌ができ、様々な企画を立ち上げることができました。

Q5

今後の展望について教えてください

A

今後は、タイでの新店舗出店を検討しているほか、タイ現地飲食店からの食肉等の受託加工事業の拡大を検討しています。以前から食肉の受託加工は行っていたのですが、最近では受託量が増加してきたこともあり、今年6月に国際協力銀行（JBIC）と七十七銀行の協調融資により資金を調達し、冷凍庫や真空加工機を増設しました。これにより、食肉加工の処理能力が上がるとともに、新たな商材についても加工を受託することが可能になったため、今後は既存取引先からの受託量増加に加え、新規取引先の開拓にも力を入れていこうと思います。

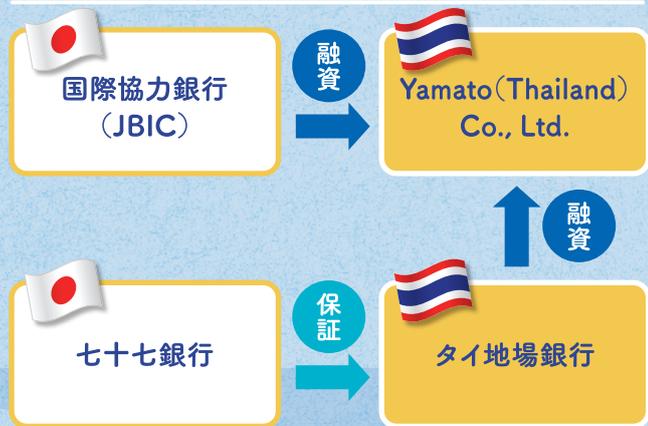
また、長期的な展望ですが、タイ以外の国への進出も検討しています。当社では現在、食肉加工分野でベトナム人技能実習生を受け入れているのですが、職種の制限により、実習期間1年で帰国してし



増設した食肉加工場の内観

まいます。せっかく出会った彼らと1年の接点しか持てないというのはもったいないと感じているため、ベトナムに進出し、帰国後の就職先としても活用できないか検討中です。

タイ現地法人 設備資金調達 スキーム図



現地スタッフと共に

Q6

タイへ進出を検討している 企業へ一言お願いします

A

タイには日系企業が多く進出しており、日本人も多くいるので、日本人にとってビジネスをしやすい環境であると思います。また、タイ人は自宅で料理をすることが少なく、外食文化が根付いていることから、飲食業でのビジネスチャンスも大きいと考えています。ただ、ビジネスチャンスが大きいということは、競合他社も多いということになります。タイへの進出を検討されている方は、是非一度タイに来て、現状を把握することをおすすめします。各社がどのような戦略で、どのようなターゲットにアプローチしているかを知ること、自社の戦略をブラッシュアップすることができるのではないのでしょうか。

タイに限らず、海外では日本の食に対する注目が高まっています。日本の食材や食文化を世界に発信していきたいと考えている方は、是非一緒に前向きに取り組んでいきましょう。



インタビューー 北上支店 久保田 恭輔

会社概要

株式会社ヤマト

代表取締役 緑川 智恵子

本社 / 岩手県北上市北鬼柳15地割
11番地2

設立 / 1986年9月

事業内容 / 飲食業

資本金 / 300万円

従業員 / 255名



本体外観



石巻店外観

現地スイーツ事情

THAILAND



タイ版おはぎの驚きの組み合わせ

【タイ・バンコク】角館 洋佑 [東洋ビジネスサービス派遣]



タ

イと言えば、トムヤムクンやソムタム、ガバオライス等の辛い食べ物があるのですが、辛いものと同様に甘いスイーツも人気があります。

タイでは、街中に露店が軒をつらね、ガバオライスのようなタイ料理から飲み物、スライスフルーツ等が10パーツから60パーツ(約35円から210円)程度の低価格で売られており、その場で簡単に食べることができます。そのため、露店で購入後、その場で簡単に食べることのできるスイーツや、辛い食事の後に口直しとして食べるスイーツが人気です。

タイで人気のスイーツといえば、日本的なかき氷から、カノブアン(タイ風クレー

プ)等いろいろありますが、伝統的なスイーツとして有名なものは「カオニャオ・マムアン」です。「カオニャオ」は蒸したもち米、「マムアン」はマンゴーを指すタイ語であり、言葉のとおり、砂糖や塩、ココナッツミルクで炊いたもち米に、ココナッツミルクのソースをかけ、マンゴーと一緒に食べるタイのスイーツです。日本のスイーツで例えると、もち米とあんこを合わせた「おはぎ」とも言えます。マンゴーとお米と一緒に食べるということには、最初は抵抗があるかもしれませんが、しかし、ココナッツミルクの優しい風味と完熟マンゴーのジューシーでコクのある甘さがクセになり、日本人を含めた外国人のリピーターが続出しています。

カオニャオ・マムアンは、タイでは一般的な屋台や食堂はもちろんのこと、高級料理店でもほぼ必ずと言っていいほどメニューにありますので、タイにお越しの際には是非お試しください。



意外とはまる、カオニャオ・マムアン

HONG KONG



見た目も味も健康も大切！香港スイーツ

【香港】鈴木 康徳 [邦銀香港支店派遣]



香

港のスイーツと言えば、マンゴープリンやエッグタルトなどが有名であり、それらは香港人、観光客を問わず根強い人気を誇っています。一方、香港人に古くから愛されているスイーツの一つが「亀ゼリー」です。その名の通り、亀の甲羅の裏のコラーゲンと、生薬などを固めて作ったゼリーであり、解熱や夏バテ予防効果のほか、整腸作用、更には美肌効果も期待できるようです。亀ゼリー自体は苦みがありますが、シロップや蜂蜜などをかけて甘みをつけ、スイーツとして老若男女を問わず食べられています。

もちろん香港人にも、単純に「甘い」・「可愛い」スイーツは人気があり、「インスタ映

え」を意識したようなスイーツも多くあります。その一方で、香港人には食事で病気を予防するという「医食同源」の意識が根付いており(なお香港は平均寿命世界1位/2018年)、亀ゼリーなど健康効果が期待されるスイーツも一定の人気を得ています。

そのような香港で今注目を集めているのが、「チーズティー」です。中国本土で人気を博したスイーツドリンクで、冷たいウーロン茶や紅茶などの上にチーズフォームを乗せた飲み物です。お茶ベース以外にもフルーツスムージーをベースとしているものもあり、甘いものも多いですが、爽やかな飲み応えが香港人に好まれているようです。

以上、どちらかと言えば健康志向のスイー

ツを中心に紹介しましたが、それ以外にも香港には多種多様なスイーツが揃っています。政治的・経済的な側面のみならず、香港の「グルメ大国」としての顔にも注目していただければと思います。



香港の街並とチーズティー

当行の海外ネットワークを活用し、世界各国のトピックスを紹介します。

CHINA



「食後」が特徴的な最新中国スイーツ

【中国・上海】村田 篤俊 [復旦大学派遣]



今

や世界各国で人気のSNSですが、中国でも絶大な人気を誇っています。風景の綺麗な場所やおしゃれなカフェで、いかに「映える」写真を撮りSNSに投稿するか、ということに力を注ぐ若者も多く見受けられます。

そんなSNSなどのインターネット上の情報から、一躍人気になった人やモノ・店のことを、中国では「網紅(ワンホン)」と呼んでおり、スイーツの分野でも多くの「網紅」が生まれています。今回はその中でも私が注目する「網紅」をご紹介します。

皆さん、「臍臍包(ザンザンバオ)」というスイーツをご存知でしょうか。日本語に直訳すると、「汚いパン」です。かなりインパ

クの強いネーミングですが、実際にはクロワッサン生地でチョコを包んで焼き上げたパンの上に、チョコレートソースとココアパウダーがかかった、甘い物好きにはたまらないスイーツです。ではなぜこのような名前になったかということ、このスイーツを食べ終わった「顔」に答えがあります。実はこのスイーツ、綺麗に食べるのが非常に難しいのです。ほぼ全ての人、食べ終わると顔の周りがチョコレートまみれになってしまいます。中国の若者の間では、このチョコレートまみれの顔をSNSに投稿することが非常に人気です。

皆さんも中国へお越しの際には、現地の若者に倣って、①おしゃれなカフェに来た

写真、②おいしそうなカプチーノと臍臍包を持った写真、③食後のチョコレートまみれの写真、といった一連のストーリーをSNSに投稿してみたいかでしょうか。



ココアパウダーたっぷりの臍臍包。食後はこうなります

SINGAPORE



期限が迫る？ 路上で味わうスイーツ

【シンガポール】伊本 佳史 [シンガポール駐在員事務所]



路

上での食品販売が禁止されているシンガポール。そのような中、唯一の例外としてアイスクリームの販売を認められた人々があります。今回はシンガポールでは珍しいストリートホーカー(路上販売する屋台)が売るスイーツをご紹介します。

このアイスクリームですが、その食べ方に特徴が…。取り出したバターのような四角いアイスクリームをカットし、それをバステルカラーの薄い食パンに挟むのが通の食べ方。値段も150円程度と、物価の高いシンガポールではお手頃価格です。

一方、この路上販売のアイスクリームは、近々姿を消すかもしれません。ストリート

ホーカーはライセンス制ですが、今後、発給されることはなく、譲渡や相続もできません。ライセンス保有者も既に高齢のため、路上販売する屋台がシンガポールからなくなる日も遠くないでしょう。現在は繁華街のオーチャードで味わうことができますので、今のうちにぜひお試しください。

そして、話は変わりますが、最近のスイーツにまつわる事件について紹介します。シンガポール発のスイーツであるティラミスヒーローをご存知でしょうか？これはキャラクターの描かれた瓶に入ったティラミスで、日本でも販売されていますが、なんと日本の企業が販売方法や名称等を模倣し、さらに商標登録したという報道がありまし

た。SNS上でも話題となり、シンガポール発のスイーツが多方面から注目を集めはじめています。様々なスイーツに出会うことができる美食の都市シンガポールで、甘い誘惑に乗って新たな出会いを探してみるのもいいかもしれません。



アイスクリームを売るストリートホーカー

N

E

W

S

タイ日系企業交流会を 開催しました！

七十七銀行では、お取引先に対する海外ビジネス支援の一環として、タイ(バンコク)において、当行業務提携先であるバンコック銀行等と合同で、ビジネス交流会を開催しました。

本交流会は、タイにおけるビジネスの最新情報についての講演会に続いて、参加者同士で交流を図るための立食形式の情報交換会を実施したもので、当日は250名を超える方々にご来場いただきました。



講演会の様子



立食形式の情報交換会

◆ ◆ ◆ タイ日系企業交流会 の概要

日時 2019年9月4日(水) 14:30~18:00

会場 バンコック銀行シーロム本店

共催 七十七銀行、および地域金融機関等の9団体

後援 日本貿易振興機構 バンコク事務所

E

V

E

N

T

日タイビジネス商談会を開催します！

◆ 日本企業のタイ現地法人同士の事前マッチング制商談会 ◆

日時 2020年1月28日(火) 12:00~17:15

会場 バンコク国際貿易展示場(BITEC)

主催 日本政策金融公庫、ほんごく盤谷日本人商工会議所、タイ投資委員会

後援 在タイ日本国大使館、日本貿易振興機構、海外産業人材育成協会、タイ財務省、タイ工業省、タイ工業連盟、バンコック銀行

協力 七十七銀行および地域金融機関等66団体

ASIAビジネス交流会2020

七十七銀行では、海外ビジネスを展開されているお取引先や、今後、海外への事業展開を検討しているお取引先等を対象に、「ASIAビジネス交流会2020」を開催いたします。

この交流会は、アジアビジネスの実務や最新の情報等をお届けするほか、お取引先が抱えるさまざまな課題の解決に向け、お取引先同士やお取引先と当行役職員との交流機会の提供を目的に開催するものです。是非とも、数多くのお取引先にご参加賜りますようご案内申し上げます。



日時

2020.2/14 **金** 15:00～18:30

会場

江陽グランドホテル 5階「鳳凰の間」

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町二丁目3-1

参加費用

お一人さま **5,000円** (当日、会場でお支払いいただきます。)

※セミナーのみ参加の場合は無料です。

ASIAビジネス交流会プログラム

第1部 セミナー 15:00～

2020年の内外経済・金融・為替動向
～ 米中貿易摩擦・米大統領選の行方～

講師

三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)

チーフ為替ストラテジスト 植野 大作氏

日系企業のASEAN進出動向と
事業戦略

講師

ES CONSULTING VIETNAM CO., LTD. GENERAL DIRECTOR
ES NETWORKS THAILAND CO., LTD. DIRECTOR

樋崎 康彰氏

セミナー終了後、海外駐在員事務所長、派遣行員から当行のお取引先支援体制や、最近の取組事例等についてご紹介いたします。

第2部 交流会 17:30～

講師略歴

植野 大作氏 *DAISAKU UENO*

1988年4月、(株)野村総合研究所に入社。米国駐在などを経て、2000年6月に国際金融研究室長。2004年4月に野村證券(株)に転籍後、金融経済研究所・国際金融調査課長として為替調査全般を統轄。2005年以降、日経新聞主催のアナリスト人気調査で5年連続為替部門1位を獲得。2009年2月に投資調査部長。同年7月に(株)外為どっとコム総合研究所の創業に参画、主席研究官として為替調査に携わり、同年12月より代表取締役社長を兼務。2012年4月に三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株)に入社。2013年4月よりチーフ為替ストラテジストとして現在に至る。

樋崎 康彰氏 *YASUAKI HIZAKI*

2001年、サン・マイクロシステムズ(株)に入社し、システムエンジニアとしてNTTグループを担当。2006年に公認会計士試験に合格した後、(株)エスネットワークスに入社。常駐支援として上場会社のCFO補佐や、経理責任者などを担当したほか、企業のM&A支援業務や再生支援、システム導入支援、事業継承支援、IPO支援などスポット業務も行う。2013年からは、同社ベトナム現地法人の代表取締役として、日系企業の進出・撤退支援、会計税務、労務、法務分野におけるコンサルティング、M&Aなどベトナムでのビジネス展開を幅広く支援。2018年からは同社タイ現地法人の取締役を兼務し、アジア全体の投資案件をサポートする。

- 募集対象
 - 海外拠点(現地法人、駐在員事務所等)を有するお取引先
 - 貿易取引や業務委託・技術供与等を行っているお取引先
 - 今後、海外ビジネスを検討しておられるお取引先等

■ 申込方法 お取引のある七十七銀行本支店にお問い合わせください。

■ 申込締切 2020年1月31日(金)

77 BANK

Global Letter

Vol.18

2019年 11月発行

発行/七十七銀行 市場国際部 アジアビジネス支援室

TEL.022-211-9880 FAX.022-721-5877

<http://www.77bank.co.jp>

☐ 本誌のバックナンバーは下記のURLよりご覧いただけます

<http://www.77bank.co.jp/kokusai/globalletter.html>